

大きく変わる学校

男子校が共学化、新カリキュラム

芝浦工業大学附属中学校



芝浦工業大学附属中学校は 1922 年に開校した東京鉄道中学がそのルーツで、戦後の学制改革で東京育英高校になり、1953 年に学校法人芝浦学園と合併して翌年芝浦工業大学高校に改称、1982 年には中学校を開校して中高一貫教育を開始しました。2017 年、板橋区から江東区豊洲に移転して、芝浦工業大学附属中学校・高等学校に改称、長らく男子校でしたが、高校入学のみ女子の募集を開始しました。いよいよ 2021 年度からは中学でも女子を募集し、共学化することになりました。

1. 共学化の目的

現代は過去にないほど女性の活躍が期待されている時代ですが、残念ながら日本では研究者に占める女性の比率が 15%と、OECD加盟国では最低レベルです(2017 年)。芝浦工業大学も長い間女子学生が珍しい状況が続いていましたが、今後の社会のあり方を考えたとき、理工系のマインドを持つ女性技術者・研究者の育成は急務であると考えて、女子学生を増やす取り組みを積極的に展開しました。その結果、2009 年には 13%だった女子の比率が 2019 年には 19%に増えました。本校でも 2017 年から開始した高校の女子募集が、規模は小さいながら 1 期生はほぼ全員が理系進路に進むなど、成果が見られます。そこで、中高大一貫の「芝浦ブランド」で、世界に貢献する技術者・研究者を育成することを目的に、2021 年度から中学募集も共学化します。

2. 新カリキュラムの実施

本校は S T E A M 教育(Science + Technology + Engineering + Arts + Mathematics)が特色で、日本語・英語・コンピューター言語の 3 つのことばを駆使する生徒を育成することは、女子が入学しても変わりません。そのうえで、2021 年度からは、さらに特色を発展させた新カリキュラムを実施します。

新カリキュラムの特徴は、あえて国数英の授業時間数を減らしたことです。代わって SD(Self Development 定着・アウトプットする時間)を授業枠として設けました。先生が講義、解説し、生徒が

ノートをとるような受け身の授業は、時間数を増やしても、生徒の成長には限界があります。しかし、学んだことを総合化して振り返り、自ら目標に向けて学びを続けることができれば、生徒は何倍も成長します。「習っていないからできない」ではなく、「習っていないから自分で学ぶ」です。

また、総合的な学習の時間を増やし、IT 技術を駆使し、デザイン思考を取り入れて理論を踏まえたモノ・コトづくりや、高度な英語コミュニケーション能力を活用することで、身の回りから世界といった広い範囲まで、社会の課題に対して「本質的な問い」を持ち、学問的な厳正さ・真正さを踏まえた問題解決型学習を繰り返すことで、想像力、創造性、探究心を育みます。

3. 進路

中学入学時点では将来の方向性は固まっていません。高校 2 年生からは主として芝浦工業大学への内部推薦の一般理系コース、国立大学の理系を考える特別理系コース、他の上位大学文系を考える文系コースに分かれ、一般理系コースには、さらに高度な英語力を持つ生徒対象の英語 SUPER クラスも設置します。芝浦工大の女子学生は抜群の就職力を誇っていますが、男女とも幅広い選択に対応していきます。

4. 入試について

各回合計 160 名募集、男女別の定員は設けません。2 月 2 日午後に、算数に加えて言語技術または英語を選択する特色入試を新設します。